

推進員活動事例

福島県郡山市

佐久間光好

1. 今までの活動

- * 環境カウンセラー登録2005年から環境問題に取り組む。以前はゴルフ場農薬問題などにかかわった。
- * 環境教育やエネルギー問題に対応、幼児教育や省エネ診断など実施。
- * 近年力を入れているのは地球温暖化影響による気象状況の変化対応対策。IPCCモデルでの予測に踏まえ福島大学などでシュミレートしたデータに基づく福島の将来予測から今後展開を目的として活動している。

2.活動指針

- * 県内推進員は各々各地で展開、まとめる立場にないので郡山市の活動事例にとどめる。
- * 地域での連携模索が始まり立ち上がって来たところである。個人からグループへの展開。
- * 各々個人的な活動は目的をもって実施している。
- * 昨年から市民向け活動を実施しているが、今年はパネル・パンフレットから自分で触れて楽しむ実験型や見て理解するものに移行した。(実験・DVD・パネル活用)

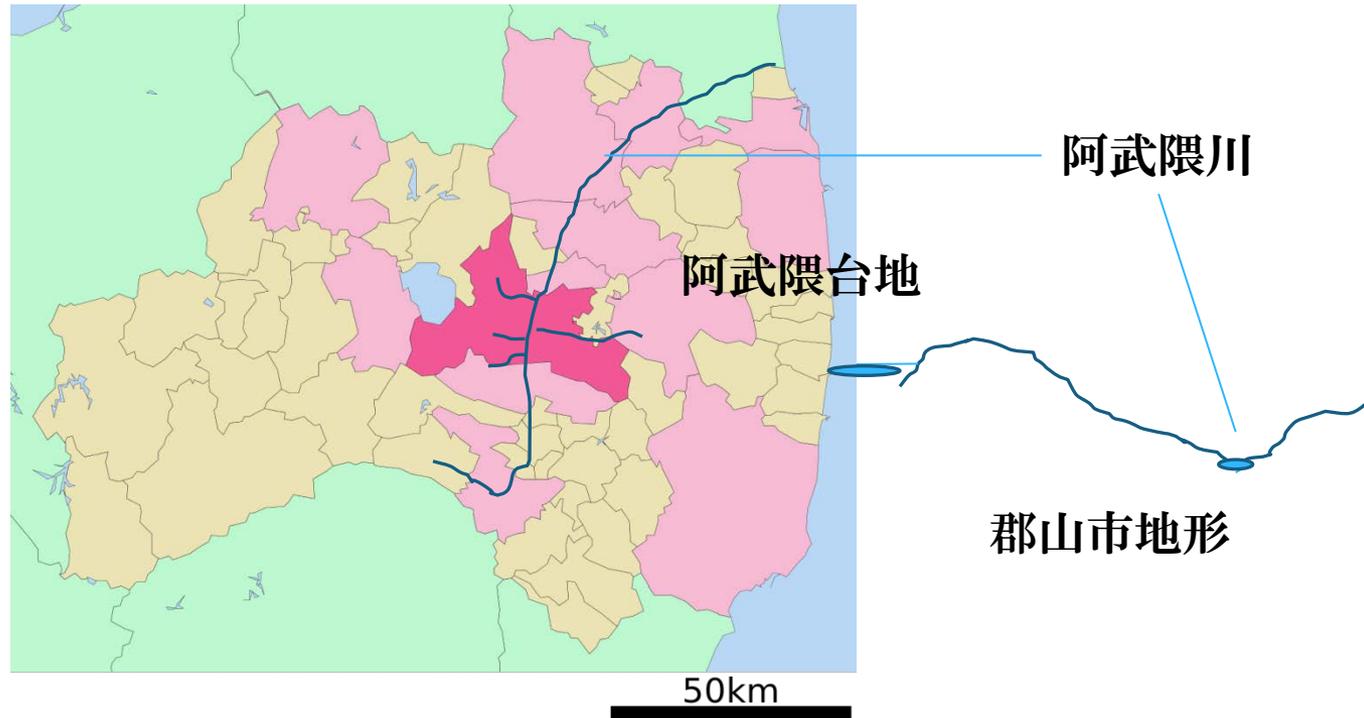
3.温暖化の意味するもの

- * 今までの温暖化防止推進員の役割：地球が熱くなっている。原因は温暖化ガスでそのためには温暖化ガスの発生を抑えるための活動。(IPCCコミュニケーター、エコピープル活動)
- * 私の取り組み(自分・達・でできること)：地球環境の気象に与える影響は大きい。近年の降雨量・台風接近経路など見ても違いが判断できる。地域の防災に少しでも貢献してゆこう。

4. 地域貢献のあり方

- * この方法・手法は沢山あるが一つの事例を紹介する。
- * 未曾有の災害発生を我々は経験してまだ間がない。時折地震も福島県沖を震源として発生している。郡山市には阿武隈川が市内を流れ、多くの大小河川が流入している。河川改修を実施しているが県南から流れる水量で都市部の標高が低いこともあっていつ堤防決壊が起きてもおかしくない状況下にある。水位上昇は駅周辺部で冠水状態に陥るところもあって災害には敏感な地域である。
- * したがって昨今の集中したゲリラ降雨は山に降った雨が時間差で水位上昇するケースだけではなく、一か所にとどまり振り続ける雨は脅威となるのである。

福島県の場合



7. 情報の共有

- * 温暖化に起因する？ゲリラ降雨は毎年8月から10月にかけて発生し、台風進路とも相まって被害が増大している。地層的にも郡山市は阿武隈山系とも関連して真砂土の地質である。これらの地質は水分含水が高くなると表面崩落が懸念される。(広島災害と類似する)
- * 温暖化がもたらすこのような状況を把握して少しでも減災してゆこうという取り組みを無線の資格を得て、行政とタイアップし市民166名で行っている。この無線通信は地域国境はないので隣県とも共有した活動にしている。

活動ひとこま

